

三里塚・ジェット闘争貫徹ノ「国鉄35万人体制」粉碎ノ 動労千葉 1年間の前進を総括し、 80年代を闘う自前の労働運動確立へ!

動労千葉第三回(第三五回)定期大会は、来る一月一日、二日の二日間、千倉町中央公民館において開催される。われわれは、この定期大会において、第一に動労「本部」反動集団からの組織破壊攻撃を断固粉碎し、動労千葉の結成と組織強化・発展を勝ちとったことを確認し、第二に八〇年代を展望した内外の情勢、国鉄情勢をしっかりとつかみ、第三に八〇年代を闘う自前の労働運動の方向と路線をうちたてなければならぬ。全支部から多数の代議員・傍聴参加をもって本定期大会の圧倒的成功をかちとろう。

ありとあらゆる組織破壊攻撃を粉碎し、前進をかちとった一年間!

この一年間、国家権力、国鉄当局と一体となった動労「本部」反動集団の動労を私物化し、引き廻し、排除の論理をもってする暴力的組織破壊攻撃に対し、動労千葉一四〇〇組合員は強固に団結し、この攻撃に耐え、はねかえし、逆に組織的、運動的前進をかちとってきた。

① 昨年末から三月段階に至る千葉地本排除策動の強まりと反撃の闘い。

② 三月三〇日、動労千葉結成大会をもって動労大改革を宣言。

③ 「3・18」20「4・17」4・28「5・1」など暴力を前面に押し出し、金をチラつかせた組織破壊「オルグ」と対決、勝利する。

④ 八月熊本大会のさんたんたる状況と片肺欠陥執行部の発足。

⑤ 「闘争第一号」や「組合費裁判」をもって当局・権力への泣きつき、当局・権力による動労千葉破壊をこい願う動労「本部」。

⑥ 10・22第一波、11・1第二波の減産・ストの貫徹と「スト反対」を公然と叫ぶ動労「本部」。

このような一年余にわたるわが動労千葉のねばり強い闘いとその勝利的前進は、闘う路線の正しさとその正義性に立脚して断固闘い抜いたがゆえにかちとられたものであり、全国的な支援・連帯と共感を強固につくり出してきたのである。

八〇年代を闘う自前の労働運動の確立にむかつてさらに前進しよう!

われわれは、動労「本部」反動集団との対決を通して、動労千葉を結成し、労働連帯の強化、三里塚・ジェット闘争貫徹、貨物安定宣言廃棄、動労大改革の道を自ら選択した。

この道こそは、日本労働運動総体がとめどない右傾化、産報化の道を歩んでいる中で、八〇年代を闘う戦闘的労働運動構築をめざす闘いの具体的第一歩であり突破口なのである。この動労千葉の闘いの路線の正義性は、この間の全国的な闘う労働者・人民の支援・連帯の拡がりをはっきりと示している。

している。

八〇年代が口先だけの運動で労働者の生活が守れるはずもないことは明白であり、形骸化し、官僚化して「水本」や「安定宣言」を持ちこむ「労働運動」を許してはならないのだ。動労の戦闘的伝統を真に守り抜いているのは「本部」ではなく動労千葉の闘いだのだ。

われわれは、このことに自信と確信を持ち、八〇年代を闘う自前の労働運動の確立をめざして、第三回定期大会を圧倒的に成功させてゆくのでなければならぬ。

特集大会
反動を砕き、
かちとった
地平

つり大会開催!

へらぶなつり大会は、一月三日、国鉄横芝駅近くの栗山川で、各支部から二六名が参加して開かれた。

栗山川は、日曜になると、早朝から観行バス、マイクロバスなどがドット押しよせるという場所だけに、この日、平日にもかかわらず、相当数の人が出ており、動労千葉ツリ大会は盛会のうちに終わった。

つり大会の成績

優勝	石橋 正二(成田)	七K一〇〇
準優勝	黒川 重雄(幕張)	五K二〇〇
3位	鈴木日出夫(佐倉)	三K
4位	篠原 紀一(成田)	二K八〇〇
5位	永田 亨一(成田)	二K五〇〇
6位	後藤 明(成田)	二K四〇〇
大物賞	石橋 正二(成田)	六〇〇g
当月賞(12位)	吉原 利和(佐倉)	
敢闘賞	稲川 隆博(成田)	